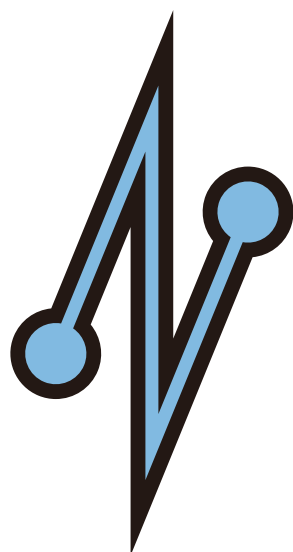


日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会

50年史



日セフ連

発 刊 に あ た り



日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会

会長 熊平 雅人

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会が結成されてから、平成27年5月で50年を迎えました。そこで創立記念事業の一環として50年史を発刊する運びとなりました。

昭和40年5月、東京、中部、大阪、中国の4組合により日セフ連の前身である日本金庫鋼鉄家具商工業協同組合連合会が設立され、初代会長に熊平清一（元㈱熊平製作所社長）が就任しました。そして、平成元年11月に九州地区を含めた現在の日本

セーフ・ファニチュア協同組合連合会と名称を変更しました。

金庫業界の歴史は大変古く、任意組合時代の昭和12年に日華事変が勃発し金庫・鋼鉄家具の製造が禁止となったため、全国金庫連合会を結成し商工省に陳情を行ったこともありました。

日セフ連の活動としては、耐火金庫のJISが昭和41年に認可され、5年に一度の見直しや改正を繰り返しながら製品の性能向上を図り、消費者に安心、安全を提供することを使命としてきました。耐火金庫・防盜金庫の型式認定制度の実施や平成8年の金庫診断士制度発足により金庫の正しい理解と、正しい使い方を普及させました。その他、環境対策、耐震対策ガイドライン策定等を社会に発信してきました。

こうして50周年を迎えましたことは、偏に役員をはじめ組合員の皆様、そしてここまで育てて頂いた諸先輩方の尽力の賜物と心から感謝しております。先達の志を生かしこれからを見据え、さらなる前進を致す所存です。何卒変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年5月

祝辞



経済産業省商務情報政策局日用品室
室長 高橋 政義

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会におかれましては、このたび創立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

日本の洋式金庫の起源は、江戸時代末期に洋式金庫を修理したことから始まり、明治初年から製造が開始されたと聞き及んでおります。貴団体は、昭和40年創立以来、半世紀の長きにわたり、金庫の品質・性能や安全性の向上に資する制度づく

りに取り組まれ、金庫に対する国民の信頼を培うことに多大な貢献をなさいました。また金庫の処理に関する問題についても、相談窓口を設け、自ら処理するなど積極的に取り組んでいると伺っております。貴団体のこうしたきめ細かい対応が、金庫業界全体の振興に裨益すると共に、循環社会への貢献をなさっていることと高く評価しております。

金庫は、命の次に大事なものである財

産を守る上で、国民生活の中で非常に重要な位置を占めている製品です。近年では、東日本大震災による津波で流されてしまったものの、そうしたいわゆる「漂流金庫」の中の財産は無事であり、後日、警察に届けられた何千個にも及ぶ「漂流金庫」のうち、99%以上のお金が持ち主に返還されたとの報道がありました。東日本大震災後、「人」と「人」との絆の重要性が再認識されると同様に、「人」と「財産」との絆を結ぶ金庫の価値が、今再び見直されていることを顕著に表した事例であると思います。

結びに、貴団体が、これからも人々の生活を守る、魅力的な金庫の普及に向けた取り組みを行うことで、国民生活の向上と金庫業界の発展に貢献され、益々ご発展されますことを祈念いたします。お祝いの言葉とさせていただきます。

*



一般財団法人建材試験センター
常務理事・中央試験所所長 黒木 勝一

伝いをさせて頂きました。

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会が、創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴連合会は、昭和40年に誕生以来、金庫の機能や品質向上を図るため、調査研究に取り組み、JISの制定・改正を行うなど安全で安心できる製品をユーザーに提供することに多大な貢献をされてきました。また、鋼製家具として事務用の机や椅子、キャビネットなどオフィスの必

需品の高機能化や標準化にも努めてこられたことにも敬意を表したいと思います。

金庫は、現金や有価証券、契約書などの貴重品を収蔵する施設または容器であり、火事や地震などの災害から守らなければなりません。また、盗難からも防衛する必要があります。想定される災害や盗難に対しての耐性、防油性を持たせるために性能を向上させる必要があります、これらの評価につきまして、中央試験所もお手

私どもは、貴連合会より1年前に設立し、貴連合会前身の任意団体より金庫の耐火試験を行う試験装置導入に寄付を頂いて以来のお付き合いです。耐火金庫の耐火試験や耐衝撃試験、防盜金庫の防盜試験など、試験方法の技術開発や評価基準の作成に第三者的な立場で協力させて頂いております。特に防盜試験では7つ道具による15分の時間内に金庫の扉を開けることができるか否か、中央試験所職員のアタック力を基準に伝承するかたちで今日に至っているということです。

多くの人々と社会にとって大切なものを保管する金庫やオフィス家具を扱う貴連合会が、さらに品質と信頼性を向上させるべく、この50周年を契機として今後益々のご隆盛を祈念致しますと共に、今後とも私ども建材試験センターとの緊密な交流をお願い申し上げます。

祝辞



一般財団法人日本規格協会 理事長 揖斐 敏夫

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会が創立50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

貴会は発足以来、火災や盗難の危険から重要物を守る金庫のJISの開発・普及に努めてこられました。

2013年には当協会も、共同提案者としてJIS S 1037（耐火金庫）の改正に携わらせて頂きました。リサイクル問題の解決をはじめ、耐火性能の向上、

防盜技術の研究、耐震対策、試験規格の開発、国際的動向の調査研究、また近年では環境への配慮としてVOC対策にも取り組まれるなど、これまでの貴会の規格開発に関する意欲的な活動に改めて敬意を表したいと思います。

既に次のJIS改正に向けて動きはじめておられますが、国際規格への対応等、当該分野に関する貴会への期待は益々高まっております。

総合的な標準化推進機関である当協会では、標準化を軸に機能安全・食品安全・労働安全衛生・情報セキュリティ等、安全安心を一つのキーワードとして活動しており、貴会の活動の目的であります「安全安心の社会への提案」に通ずるところがございます。

当協会としては、貴会と連携し、今後とも規格の開発と普及を強力に推進すること、共に社会経済の発展と国民生活の向上に寄与していく所存です。

最後に、貴会の運営にご尽力された会員様はじめ関係の皆様方の今後の益々のご発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

*



全国中小企業団体中央会 会長 鶴田 欣也

この度、日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会が、記念すべき創立50周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会は、昭和40年5月の設立以来、半世紀の永きにわたり防盜性能向上や「金庫診断士制度」の策定など、業界の発展や所属員の社会的・経済的地位の向上に大いに貢献してこられました。

これも偏に、日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会の役員並びに会員各位の固い結束とためまぬ努力の賜物であると深く敬意を表します。

政府は事業の持続的發展を支援するため、骨太の方針と新たな成長戦略を閣議決定し、さらに、小規模企業振興基本法も成立いたしました。

全国の9割以上を占める中小企業・小規模事業者は、原材料のコスト高や消費

低迷の対応のほか、人手不足が深刻化するなか地域産業の担い手の育成・確保など、山積する課題を克服するための極めて重要な時期を迎えております。

私も全国中小企業団体中央会といったしましては、「団結は力 見せよう組合の底力！ ～組合で進めよう！ 中小企業の持続的發展～」のスローガンのもと、これまで以上に緊密な連携を図って参る所存であります。

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会の会員の皆様方におかれましても、団体創立50周年を契機として、金庫業界のさらなる振興・発展のため、なお一層ご尽力くださるようお願い申し上げますと共に、日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会の益々のご発展を祈念申し上げます、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

*

発刊挨拶

4

祝辞

経済産業省日用品室長 高橋政義／(二財)建材試験センター 常務理事 黒木勝一

6

(二財)日本規格協会 理事長 揖斐敏夫／全国中小企業団体中央会 会長 鶴田欣也

第Ⅰ章

日セフ連とは

理念／取り組み／組織図

14

歴代会長

18

日セフ連と共に
― 会長・副会長紹介

20

現役員

28

各地区組合

34

委員会活動

46

第Ⅱ章

座談会 ― part 1. ―

64

トピックス	熊平会長叙勲／海外視察／大震災の教訓／新JIS改正	82
座談会	— part 2. —	96
セキュリティ考察		
東京理科大学総合研究機構 教授 菅原進一／(株)日建設計執行役員 山梨知彦		114
寄稿		
伊藤喜ベストメイツ(株)社長 伊藤七郎	60	
初代内閣安全保障室長 佐々淳行	90	
日本防犯設備協会 特別講師 富田俊彦	92	
第Ⅲ章		
年表		126
写真で綴る日セフ連		168
定款		173
会員社名簿		181
あとがき		204

第 I 章

Safe Furniture Cooperatives

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会（日セフ連）は、金庫を中心とした鋼製家具類の製造・販売等を行う事業連合会です。

全国5地区（東京、中部、大阪、中国、九州）の地区組合で構成され、金庫（耐火金庫）のJIS取得や、消費者に対して金庫の啓蒙・啓発活動等を行っています。

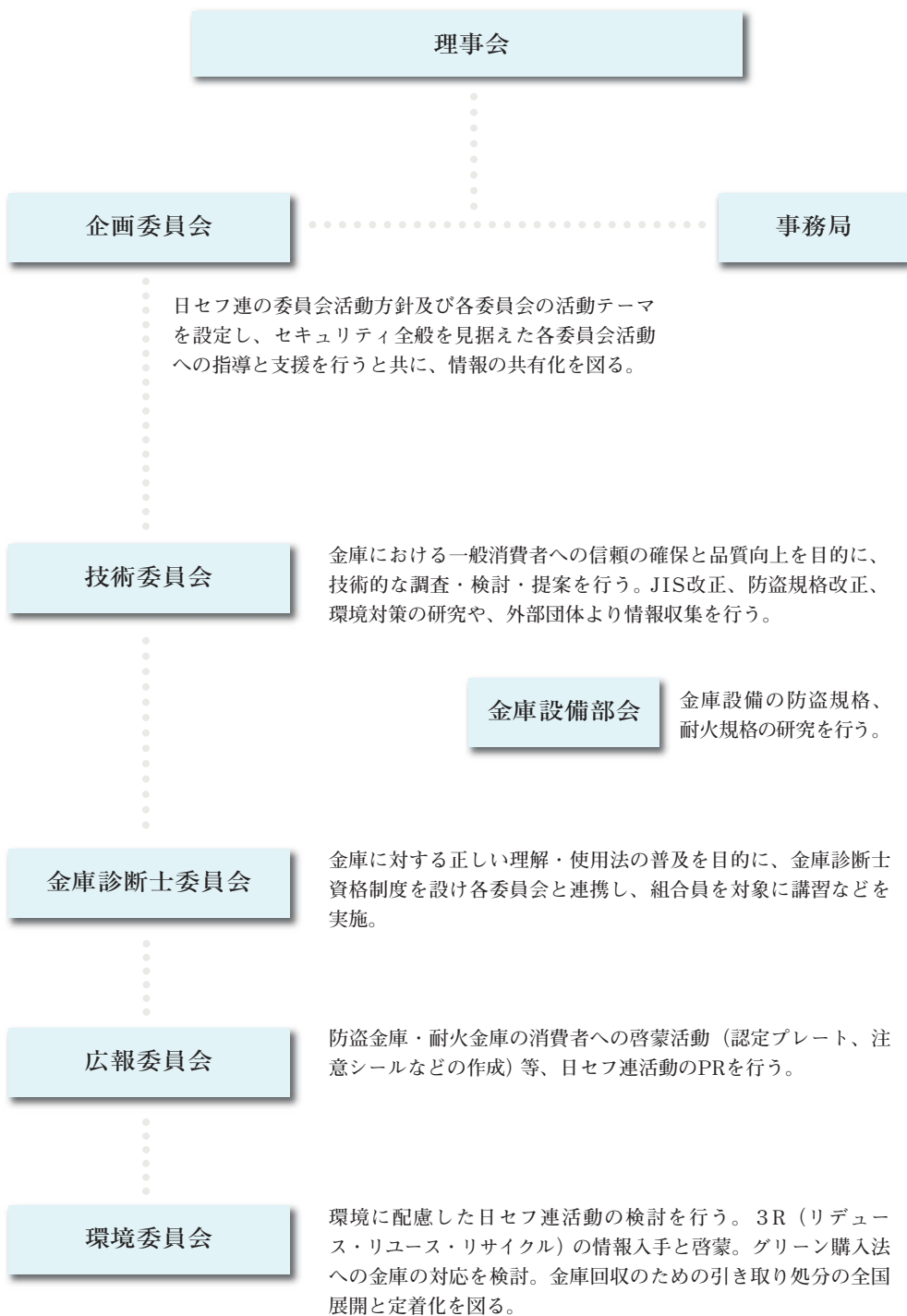
日セフ連は、業界内における金庫に関する基準を自ら厳しく設定しています。さらに、その基準を消費者に広く普及させることによって、「業界の活性化」を図り、「所属員の社会的・経済的地位の向上」を目指しています。所属員への情報提供や共同事業を行い、それぞれの自主的な経済活動を促進し、市場への貢献につとめています。

The Federation of Japan

【日セフ連の主な活動】

- I 金庫のJIS(耐火金庫)に関する共同研究
- II 金庫の防盜規格に関する共同研究
- III 金庫診断士制度における資格認定
- IV 消費者に対する金庫の啓蒙・啓発
- V 金庫設備の防盜規格、耐火規格に関する共同研究
- VI 環境に関する調査研究
- VII 所属員の経済的地位の改善に関する調査研究
- VIII 所属員の経営および技術向上に関する調査研究
- IX 所属員の教育および情報の提供
- X その他目的を達成するために必要な事業

【委員会組織】



日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会

東京セーフ・ファニチュア協同組合

中部セーフ・ファニチュア協同組合

大阪セーフ・ファニチュア協同組合

中国セーフ・ファニチュア協同組合

九州セーフ・ファニチュア協同組合

歴代会長

三代会長



花井 義正

(在任期間

昭和62年5月～平成2年5月)

二代会長



竹田 正巳

(在任期間

昭和60年5月～昭和62年5月)

初代会長



熊平 清一

(在任期間

昭和40年5月～昭和60年5月)

六代会長



熊平 雅人

(在任期間
平成13年5月～)

五代会長



伊藤 七郎

(在任期間
平成6年5月～平成13年5月)

四代会長



熊平 肇

(在任期間
平成2年5月～平成6年5月)



会長 熊平 雅人

100年を目指し、さらなる業界の発展を祈念

日セフ連の前身である、日本金庫鋼鉄家具商工業協同組合連合会の初代会長を務めました熊平清一は私の伯父です。あれから50年。日セフ連50周年という日を迎えることができ、本当に有り難いことだと感謝しております。

私は平成13年に会長を仰せつかり、今年14期目を迎えました。実は、私が昭和40年4月、株式会社東京熊平金庫店に入社してから偶然にも50年になります。これも何かのご縁であろうと感慨深いものがあります。

平成18年の欧州視察ではウエルカムパーティーや秋深いロマンチック街道を満喫したこともよい思い出となっております。

親睦を通し、相互理解を深めるという方針のもと、2つのことを実行しております。年間6回開催される理事会を5地区組合の持ち回りで開催しています。また総会開催についても全国各地で開催することにより、皆様と懇親を深めております。これからも100年をめざし、業界がさらに発展していくことを祈念いたしております。



副会長 内記 政春

「おかげさまで」の気持ちを常に大切に

私は、昭和22年10月23日に京都府で生まれました。趣味はゴルフ、座右の銘は「付度（そんたく）」、そして近江商人の「三方良し」です。他人の気持ちを推しはかり、「三方良し」の教えに通じる「おかげさまで」の気持ちを、常に大事にしていきたいと思っています。

平成8年に先代から受け継ぎ、株式会社ナイキの社長に就任しました。平成12年より、当協同組合連合会の副会長を務めております。また、平成20年より大阪セーフ・

ファニチュア協同組合の理事長も務めております。

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会は50年という長い歴史の中、親から伝えられ、2代目・3代目が受け継いでいると思いますが、皆さんが組合を大事にしているという気持ちを持った人たちの集まりだと思っています。

これからも50年という歴史の重みを感じ、伝統を守り、各地区の組合をまとめていってほしいと思います。



副会長
川村 正

これまで頂いた絆を財産に今後も前進

創立50周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

私は、ランドマークとして親しまれた名古屋テレビ塔が完成した昭和29年に生まれました。勤務先の株式会社ヤマニ商会は昭和2年創業の中部第5代理事長・川村明を祖父、第7代理事長・川村清を父に、取引先や顧客を大切に『社会と客から信頼される企業に』と31歳から社長業を歩んでまいりました。「企業は人なり」と、出会いのご縁から取引先及び組合員の方々との長いお付き合いをさせて頂いています。

お蔭さまで、このご縁を頂いた皆様との絆が、私の財産です。高校時代に卓球部主将でインターハイに個人戦出場の夢が叶い、大学時代は音楽のバンド仲間と青春を謳歌しました。社会人になり、各会でのリーダーとして組織をまとめる難しさを学びました。

現在、日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会では、責任ある役職を受けさせて頂き、今後も金庫からセキュリティ全般のソフトを重視して、少しでもお役に立てますよう前進していきます。



副会長 諏訪 正昭

50年の歴史を礎に「不易流行」を体現

日本セーフ・ファニチュア協同組連合会
50周年、誠におめでとうございます。記念誌発刊にあたり、お祝い申し上げます。

日本金庫鋼鉄家具商工業組合連合会から、現在の日本セーフ・ファニチュア協同組連合会まで50年の歴史を積み上げてまいりました。

松尾芭蕉の言葉に『不易流行』があります。「不易」とはいつまでも変わらない事です。「流行」とは時代に応じて変化する事を意味します。日本工業規格（JIS）を例に

とりますと、JIS製品の信頼性は「不易」ですが、時代に適応する基準値は「流行」です。日セフ連はJIS改定にあたり、組合員の足並みが揃うよう各委員会検討を重ね、これから先もやるべき業務が沢山あります。

これまで50年培ってきた歴史をこれからの礎にして、不易（不変）なものを顧客のニーズに沿った流行（変化）にいち早く対応し、この業界がさらなる発展をいたしますよう願っております。



副会長 柿木 秀嗣

安心・安全の基準作りをグローバルスタンダードに

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会の創立50周年、誠におめでとうございます。半世紀もの長い歴史の積み重ねに対し、また諸先輩方の努力や関係各位より賜りましたご支援に対して、心より敬意を表し、感謝申し上げます。

私が前任者より役職を引き継いで5年目になります。何も分からない状況でのスタートでしたが、会長、副会長、理事、そして事務局の皆様の温かいご指導のおかげで、何とか努めさせて頂いております。理事会

でのさまざまな検討事項は、日本における安心・安全の基準作りそのものであると強く感じております。今後益々その位置づけ、役割は大きく拡大するものと考えられます。日セフ連の動向が、グローバルスタンダードとして位置づけられるよう、活動を発展させていきたいと思います。

最後になりますが、日セフ連がより一層発展いたしますよう、関係各位の変わらぬご支援を、何卒宜しくお願い申し上げます。



副会長 中村 匠

先達から次世代へ 業界発展へ夢あるバトンタッチ

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合
会創立50周年、誠におめでとうございます。

日本の金庫業界発展のために情熱を持って取り組んでこられた先達の方々が紡いできた50年に亘る歴史は、各地区組合相互の協力体制のもとで金庫や金庫設備の規格の設定、整備をし、消費者への金庫の正しい知識の普及や啓蒙を行うことで業界の活性化や社会的地位向上等に寄与されてきました。改めて当会の50年の歴史とそこに関わられた方々へ敬意を表すると共に心より感

謝を申し上げます。

このような先達の方々の意思を継承しつつ、成熟産業の課題に対し、新たな市場創造等の議論を交わす一方で、昨今増加傾向にある金庫以外の鋼製家具を扱う会員を対象とする企画等によってさらなる会員拡大、内部組織の充実を図ることも重要であります。

将来の業界のあるべき姿を模索し、次世代に対するさらなる業界発展への夢あるバトンタッチを実現したいと考えます。



副会長
角野 博司

通過点とするか、大きな飛躍とするか、節目の年

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会
創立50周年、誠におめでとうございます。

私は、昭和48年に株式会社クマヒラに入社、平成23年4月に代表取締役社長に就任いたしました。同年、日セフ連副会長に任命頂き、現在4年目を迎えております。

当会は金庫及び鋼製家具の業界において半世紀、社会に「安心と安全」を啓蒙し、業界全体の育成と発展のため、さまざまな面でバックアップしてまいりました。しかしながら創立当時と異なり、社会をとりまく環境は

大きく変貌しております。この50周年を単なる通過点にするか、来たるべき100周年に向けて飛躍の年にできるか、大きな節目を迎えているのではないかと思っております。

その鍵を握るキーワードは「セキュリティ」であり、カテゴリーの違う製品群をトータルでシステム化させることこそが、業界としての我々の使命ではないかと考えております。社会のグローバル化や企業等における問題の多様化が進む中、新たなセキュリティの基軸は必要不可欠です。



副会長 田中 稔彦

仕事も趣味も人生も「壺中、天有り」でありたい

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会、団体創立50周年誠におめでとうございます。

私どもの九州セーフ・ファニチュア協同組合は5組合の中で最も歴史が浅い組織です。それだけに日セフ連には、全国との相互理解の場として感謝と敬意の念を抱いています。国民の安心安全を守る大切な事業を幅広く浸透させるには、地域と全国の相乗的な活動が不可欠です。グローバル時代だからこそ、地域との連携を深めた社会貢献をこ

れからも継続して参りたいと考えています。

私は長く報道の仕事に携わっていました。読書や旅行など自分の知らない価値に触れることに最も関心があります。一方で、元は理科系でしたので「智に働けば角が立つ」の戒めに気をつけています。1960年2月8日生まれの水瓶座。好きな言葉は「壺中、天有り」。どのような世界にも天があり、天を目指す力が大切と説く六中観の一つです。仕事も趣味も人生も、そうありたいと願っています。

現 役 員



会長 熊平 雅人
(株)クマヒラ
代表取締役会長



副会長 柿木 秀嗣
(株)イトーキ
執行役員/関西工場長



副会長 諏訪 正照
(株)熊平製作所
代表取締役社長



副会長 川村 正
(株)ヤマニ商会
代表取締役社長



副会長 内記 政春
(株)ナイキ
代表取締役社長



副会長 田中 稔彦
金剛(株)
代表取締役社長



副会長 角野 博司
(株)クマヒラ
代表取締役社長



副会長 中村 匠
(株)サガワ
代表取締役社長

| 常任理事 |



水内建雄
(株)クマヒラ九州支社
取締役 支社長



浜崎公男
(株)クマヒラ中四国支社
常務取締役 支社長



上嶋光弘
(株)上島金庫
代表取締役社長



佐川 清
(株)佐川
代表取締役社長



鶴見哲男
ダイシン工業(株)
代表取締役社長

| 理事 |



和泉龍吾
(株)清和ビジネス
代表取締役会長



樋口隆夫
樋口金庫(株)
代表取締役社長



神足泰弘
(株)くろがね工作所
取締役社長



長谷川宏之
中京金属(株)
代表取締役社長



中村胎三
(株)エーコー
代表取締役社長



藤井信久
(株)フジカナ
代表取締役社長



金田憲子
東京銅器(株)
代表取締役社長



新井宏昌
三進金属工業(株)
代表取締役社長



田中裕人
(株)カルカヤ
代表取締役社長



元 徳光
ダイヤセーフ(株)
代表取締役

| 理事 |



貫名英一
コクヨファニチャー(株)
上席執行役員



川村 巽
(有)カワムラ
代表取締役社長



田邊恵一郎
東京鋼鐵工業(株)
代表取締役社長



岩崎剛巧
(株)イワサキ
代表取締役社長



山口 孝
山時金庫(株)
代表取締役社長



中 洋一
山三鑄造(株)
代表取締役社長



長瀬高明
(株)三高
代表取締役



岡本修一
(株)ニッケンハードウェア
代表取締役社長



糸井光博
(株)イトコー
代表取締役社長



仲村督司
(株)ナカムラ
代表取締役社長



牧野広司
(株)岡村製作所
専務取締役



森尾裕行
(株)クマヒラ関西支社
取締役支社長



峯村陽一
(株)オプナス
代表取締役社長



仁張正之
(株)仁張工作所
代表取締役社長



古谷勝彦
生興(株)
代表取締役社長

| 理事 |



中川 晋
山陽鋼材(株)
代表取締役会長



高森俊仁
豊国工業(株)
専務取締役



中村和寿
(株)クマヒラ東海支社
取締役支社長



三木隆信
日本アイ・エス・ケイ(株)
常務取締役



渡邊博之
(株)イトーキ
常務執行役員 副本部長



桃田 稔
(株)トーホーエイド
代表取締役社長



三島基成
三島精器(株)
代表取締役



塩見明男
塩見(株)
代表取締役社長



清野 宏
(株)ライオン事務器
代表取締役専務



林 一幸
(株)イトーキ西日本支社
支社長

| 監事 |



河端 学
(株)ツガワ・マシーナ
代表取締役



宮成英昭
(株)宮成製作所
代表取締役社長



安田幸一
北川金属工業(株)
取締役相談役

| 監事 |



橋田 耕治
(株)ナイキ九州支店
支店長



高園 浩二
ファイルテック(株)
代表取締役社長



桑山 純一
光スチール家具(株)
代表取締役



中村 文雄
日セフ連事務局長

(平成27年3月現在)

地区組合

東京セーフ・ファニチュア協同組合



賀詞交歓会

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会が創立50周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます

東京セーフ・ファニチュア協同組合は、東京がまだ東京府と呼ばれていた昭和16年、その前身として「東京金庫商業組合」が金庫の販売・修理を営む篤志家8名により設立されました。初代理事長は(株)佐川製作所の社長・故佐川笛飯次氏が就任しました。

その後、昭和21年、東京がまだ焼け野原の状態の中、我が国金庫業界の本格的な組合活動の幕開けとなる「東京金庫施設組合」が新たに発足いたしました。そして翌年の昭和22年2月1日に協同組合法に基づいた「東京都金庫商工業協同組合」が設立されました。昭和29年には名称を「東京金

庫鋼鉄事務器協同組合」と改称しました。東京金庫鋼鉄事務器協同組合は、昭和20年以前からあった物品税の撤廃運動という、他業界団体と共に戦ってきた活動の歴史を見逃すことはできません。

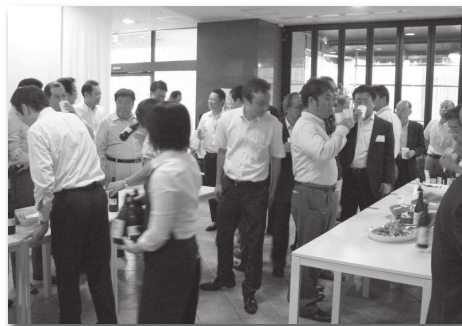
年号が昭和から平成元年と改元された1989年に、現在の「東京セーフ・ファニチュア協同組合」と改称し現在に至っています。

東京セーフ・ファニチュア協同組合としての組合活動は、多様化していく犯罪など社会変化に合わせ国民の財産、記録、そして、かけがえのない物を安全・安心に守るという使命のもと活動してまいりました。組合は金庫の製造・販売・修理に携わる企業が協力と協調性をもつことにより大きく発展しました。

特に、2011年3月11日に発生した東



勉強会風景



ビアパーティー

北地方太平洋沖地震の際には、想像を絶する災害の中、津波により流失した金庫を組合企業が中心となり金庫の開扉作業を懸命に行いました。この活動の展開で、より多くの所有者の元へ大切な品物や財産を戻すことができました。

本組合員の所在は、関東地方を中心に山梨県、長野県、新潟県のほか、東北地方及び北海道を組合員の地区としており、広範囲にわたる活動を行っております。

組合活動はその理念として、相互扶助の精神に基づき組合員のために必要な共同事業を行い、組合員の公正な経済活動の機会を確保し、その自主的な経済活動を促進して経済的地位向上を図ることを目的としております。現在もその理念のもと製造、販売、サービス業が協調し合い業界発展に寄与しております。

東京セーフ・ファニチュア協同組合では、組合員の事業に関する経営及び技術と知識

の向上を図るべく、専門の講師を招き今後の経済情勢や市場の流れについて勉強会を実施しております。このほかにも音楽演奏会や文化、スポーツ分野の講演会なども開催しております。

また、組合員の情報交換と懇親を深めるための賀詞交歓会やビアパーティーなどを実施しています。

組合の青年部会では、国内はもとより海外の各種研修会への積極的な参加と、組合の広報誌作成など今後の組合活動の活性化と、より一層の発展を目指して活動しております。

東京セーフ・ファニチュア協同組合は、日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会の中核的組合として消費者のセキュリティの意識を高め市場創造を図ることにより、より安心・安全な社会になることを目指していきます。

事務局長 助川 純美

地区組合

中部セーフ・ファニチュア協同組合



親睦旅行（中国・昆明）
2001年6月1日～4日

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会が創立50周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

当組合は、昭和13年5月に「名古屋金庫商業組合」として名古屋市公会堂で組合員16名で結成、創立しました。その後、全国の金庫業界有志（後の連合会）の会議で名古屋支部の受け持ちは、愛知県・三重県・静岡県・長野県・滋賀県・福井県・石川県・富山県・新潟県の9県下となり、昭和23年に「愛知県金庫業組合」と改組し、後に岐阜県が加わり、昭和39年10月に「中部金庫鋼鉄家具商工業協同組合」となり、平成元年に現在の組織名に変更しました。本年が創立77周年にあたり、現在では金庫設備の製造から耐火・防盜金庫及びオフィス家具の販売、移設運搬、廃棄処分、錠前

等のメンテナンスまで、幅広いニーズをもつ業界団体として中部地区内を組合員の皆様と共に活動しています。

顧みますと、名古屋市における金庫販売営業のはじまりは、明治時代の岡谷合資会社（岡谷鋼機株）金庫部であり、金庫製造の元祖は鍋野金庫です。そのほかに奥田金庫、岩津金庫、下田金庫、石垣金庫、竹内金庫、岩間金庫。大正時代には安田金庫、小林金庫、石原金庫、早川金庫、鈴木製作所、奥村製作所、南興工業、山口製作所（山時金庫株）、友松製作所。そして昭和時代には、東邦製作所、タン忠、佐川金庫、ヤマニ商会、高崎商会、瑞穂金庫、杉本製作所、名宝製作所、中京金属工業所、祖父江金庫、山正製作所、福槌金庫、小出金庫、桜金庫、上島金庫、千代田金庫、岩城金庫、須原金庫、井上金庫、ユタカ金庫、星野製作所、

総会後の懇親会



平成19年度総会後の懇親会 (H19.5.11)



ゴルフ親睦会

関係の講師やセキュリティ分野、先輩役員の講演等の勉強会を実施しています。

先人の功績としては、6代目理事長・木下金作が藍綬褒章を受章しました。また、創立60周年記念式典では、7代目理事長・川村清、副理事長・北川 計に永続役員功労賞を贈り、組合員一同で祝いました。そして創立80周年に向けて、今後も金庫を通じて国民の皆様の安心・安全な製品開発とアフターサービスを

河合金庫等が記録されています。

当組合の歴代理事長は次の通りです。

1. 岩津盛利 2. 木下誉根一 3. 上島光郎
4. 伊藤重治 5. 川村明 6. 木下金作
7. 川村清 8. 木下金一郎 9. 長谷川宏之 10. 川村正

日本が高度成長期に入り、中部地区にお

いても金庫・鋼製家具の製造販売として後

継者の集いも活発になり、双葉会と称した

青年部会で親睦を深めました。また、取引

先の運送業や錠前師、オフィス家具の中部

地区の支店からも入会を頂き、皆様と中国

や台湾等の海外視察、国内旅行やゴルフ親

睦会等、情報交換などの活動を広めてきま

した。現在では新年の研修会として、警察

提供できますよう、組合員一丸となって積極的な事業活動を展開していきます。

結びになりますが、日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会の今後益々のご発展と、全国組合員の皆様のご活躍、ご多幸を祈念申し上げます。

事務局長 井上卓次

地区組合

大阪セーフ・ファニチュア協同組合



大金会 第124回記念旅行（沖縄、石垣島・西表島 平成23年10月）

大阪セーフ・ファニチュア協同組合は、大正10年4月に大阪の金庫業者16名により業者間の一層の親睦を図り、ひいては業界の発展に寄与するための懇親会「大阪金庫有志会」の名称で発足いたしました。昭和2年初めに台湾の業者より奉安庫の特許侵害の訴えがあり、これに応訴するため大阪金庫有志会とは別に「大阪金庫業組合」を創立し、訴えに勝訴いたしました。当組合は昭和2年4月のこの「大阪金庫業組合」をもって創立としています。

その後、昭和24年の中小企業等組合法の制定に伴い、「大阪金庫鋼鉄家具商工業協同組合」と改称し、昭和24年9月16日に中小企業等協同組合法により認可されました。さらに、平成元年9月には「大阪セーフ・ファニチュア協同組合」と現組合名に改称いたしました。なお、「大阪金庫有志会」

は、その名称を「大金会」として現在に至っています。当組合は発足以来80有余年、今後も親睦と協調を重視した組合活動を行ってまいります。

当組合の主な事業は次の通りです。

- ①教育情報事業（総会及び新年互礼会の開催、金庫診断士資格制度に伴う講習会と資格認定試験の開催、組合ニュース年2回発刊、人材育成セミナーの開催等）
- ②販路開拓事業（日経ニューオフィス賞・近畿ブロック顕彰の実施及び受賞企業見学会の実施等）
- ③福利厚生事業
- ④金庫回収・廃棄処分事業
- ⑤青年部活動（総会の開催、親善野球大会の運営、各種見学会の実施、各種外部研修・講習会への参加等）

福利厚生活動の一環として昭和33年より、当組合では同業者の親睦と交流を、スポーツを通じて行うことを目的とした親善野球大会をスタートいたしました。第1回大会は近鉄藤井寺球場のサブグラウンドで開催し、31チームの参加という盛大なものでした。以来、国際情勢や業界における社会背景も大きく変わる中、野球大会は1度も絶えることなく57回の多くを数える大会

となり、その間、9名の理事長さんが先輩の志と情熱を受け継いで、今や大阪業界の初夏の風物行事となっています。今年も13チームが栄光の金鷲旗を目指し、イトーキ穂谷グラウンドにて熱戦を繰り広げました。昭和42年には、ゴルフ競技を通じて会員相互の親睦と体向上、業界発展に寄与することを目的に12名で大金研修会をスタートいたしました。同年11月7日に第1回大



第56回 OSFA親善野球大会（イトーキ穂谷総合グラウンド 平成25年5月）



OSFA 青年部海外視察（タイ・バンコク（株）エーコー金庫工場 平成25年9月）



第149回 大金会研修会（枚方カントリー倶楽部 平成21年4月）

会を枚方カントリー倶楽部で開催し、現在、会員数も18名となり今日まで、実に第166回の開催を重ねています。10回毎の節目には記念大会も開催しています。

親睦旅行も今日まで130回続いています。昭和50年3月の51回以降、節目の記念旅行では沖縄2回、北海道4回、東北岩手1回、九州2回行っています。海外へは台湾2回、中国2回、さらに90回の記念旅行

では、はるばる赤道を越えてオーストラリア、100回の記念旅行ではニュージーランドを訪れるなど、広く海外へも見聞を広めると共に、会員相互の融和と親睦を図りおいに成果を高めています。

事務局長 尾辻幸雄

地区組合

中国セーフ・ファニチュア協同組合



親睦ゴルフ

このたびは、『日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会創立50年史』発刊おめでとうございます。50周年という記念すべき節目に、未来への礎とすべく「記念誌」を発刊されますことは、誠に意義深く、心からお祝い申し上げます。

さて、中国セーフ・ファニチュア協同組合は、昭和39年11月17日に「広島県金庫鋼鉄事務器協同組合」として、日本金庫鋼鉄家具商工業協同組合連合会（現・日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会）初代会長でもある故・熊平清一によって設立されました。当組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、これをもって組合員の自主的な経済活動を促進し、その経済的地位の向上を図ることを目的としています。初代理事長に久保田精一

が就任。二代目・柳川秋人、三代目・平原義雄、四代目・山本一、五代目・熊平肇、六代目・西井暢男、七代目・今村哲雄、八代目・坂本憲治、九代目・横山隆之、十代目・諏訪正照（現理事長）。

やがて時代の流れにより、平成元年8月7日、「広島セーフ・ファニチュア協同組合」と名称を変更。平成4年8月、受け持ち地域を拡大して、「中国セーフ・ファニチュア協同組合」と改名しました。事務所を広島市に置き、広島県、岡山県、山口県を区域として、現在32の組合員で構成されています。

組合の目的のためには、「情報の共有化」が一番大切なことと考えています。その方法が行事への参画です。当組合では、毎年6月に親睦ゴルフを開催します。毎回20～24名の方にご参加頂き、ゴルフ

談議も然ることながら、世間話をしながら優勝めざしてプレイしています。9月1日には会報を発行します。定例総会の結果報告、親睦ゴルフ結果報告、備前焼、情報交換会、企業紹介、私の趣味などの記事を集めて掲載しています。

10月には貸切バスで岡山県瀬戸内市内の窯元へ

備前焼の体験に出かけます。すでに14回を数え、皆さん要領を心得てバスの中や昼食会場、作陶時間などを利用して種々の情報を交換されています。手びねりで作陶した作品は年末に焼き上がり窯元より届き、2月の情報交換会での品評会に備えます。11月には、各社の総務・人事担当者を対象に勉強会を行っています。これまで定年前後の手続き、暮らしの税金、セカンドライフセミナー等のテーマで開



情報交換会・歓談（ゴルフの打合せ？）



備前焼体験風景



備前焼作品の数々（情報交換会／子供連参加作品）

催しました。2月に開催する情報交換会は、まさに日頃あまり話す機会のない方々との情報交換の場となっています。

こうした年4回の行事と会報の発行、また5月には定例総会を開催し、総会後には懇親会を行っています。少しでも多くの情報を共有できるよう、組合員の皆さまには、兎にも角にも集まりの場にご参加頂き、情報が自分の会社において、何に生かせるのかをお考え頂く。この情

報交換が、相互扶助・経済活動の促進につながるものと思います。

組合活動については、現在の年間行事の状況を保ちながら、今後は環境問題への対応として取り組んでいる金庫引取り廃棄処理の取扱件数を増やし、現在行っている行事での会費徴収金額を抑えることにより、ひとりでも多くの方に参加頂けるよう努める所存です。

事務局長 松本 峰男

地区組合

九州セーフ・ファニチュア協同組合



九セフ・セミナー（平成26年1月）

九州セーフ・ファニチュア協同組合は、組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、これをもって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上を図ることを目的とする。

当組合では、組合員の事業に関する経営及び技術の改善向上、並びに各社員の事業人、社会人としての知識、技術の習得を図ることを目的に次の教育研修を行っている。

① 組合員の社員研修会

平成19年1月／NPO法人福岡城市民の会・理事の岡部貞一郎先生を講師にお迎えし、「博多・大宰府暮らしのしきたり」と銘打って、博多の歴史文化と福岡城・鴻臚館の歴史及び大宰府の由来について講演して頂いた。

平成26年1月／㈱一蘭の吉富学社長を講師にお迎えし、「一寸法師戦略」弱者が強者に勝つ為の戦略」と銘打って吉富流経営学を学んだ。

② 社会見学会

平成24年7月／2階建てオープントッパバス（屋根なし）による市内観光。都市高速で海岸沿いの景色を眺めながら、ヤードームや福岡タワーなど福岡都心部を回るコース。日ごろから見慣れた福岡、博多の街並みが、2階建てバスならではの高い視線からの景色や、自然の光や風を直接感じられるオープンバスの開放感やスリル感を味わうことができ、福岡の魅力を再認識した。

平成25年7月／博多人形会館 松月堂にて博多人形の絵付け体験。職人さんによって一つひとつ丁寧に焼かれた人形を



社員研修会。手前は4代目・松井理事長（平成17年1月）



博多人形絵付け体験（平成25年7月）



第21回ボウリング大会（平成25年10月）

各自選び、思い思いの色を塗っていく。絵付けに集中して暫し無言になり、真剣な表情で筆を運ぶ。主に絵付けで苦戦したのが目、口、眉毛など細かい部分の顔の表情で、手のひらサイズの人形に色付けていくのは至難の業で、最後に社会見学会の記念に自分だけのオリジナルの博多人形を持ち帰った。

また、組合員相互の親睦を図り、情報交換等の円潤化と活性化を促進すると共

に各組合員間の連携を深め、合わせて社員各自の士気高揚を図ると共に次の事業を行っている。

③ゴルフ大会 平成19年9月／第6回ゴルフ大会を福岡の「久山カントリークラブ」にて開催、8名参加。平成25年11月／第12回ゴルフ大会を福岡の名門「芥屋ゴルフ倶楽部」にて開催、11名参加。

④ボウリング大会 平成25年10月／第21回ボウリング大会を博多スターレーンに

て開催、43名参加。

⑤会報の発行 組合員への各種情報の提供と実施施策の紹介、組合員からの要望や提案等を掲載。平成26年1月、会報37号を発行。

⑥金庫廃棄事業 不法投棄、環境問題の観点から、組合企業の社会的責任において金庫廃棄事業を行っている。

九州セーフ・ファニチュア協同組合は、会員同士の交流が盛んであり、会社や組

織の枠を超えた友情も深くなっている。組合活動に対しても、皆さん盛んにかかわって頂き、団結力も強いことが九州の大きな強みとも言える。これからもお互いを尊重、信頼し合う仲で、仕事の面では切磋琢磨しながら、九州地域におけるセーフ・ファニチュアの重要性を広く社会に認識して頂けるような活動に重点を置きたい。

事務局長 託麻龍一

事務局

日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会



総会風景

昭和40年5月に「日本金庫鋼鉄家具商工業協同組合連合会」が発足し、初代会長に熊平清一（在任期間16期）が就任しました。2代目・武田正巳（2期）、3代目・花井義正（3期）、4代目・熊平肇（4期）、5代目・伊藤七郎（7期）、そして6代目となる現在の熊平雅人（14期）が会長を務めております。

日セフ連を語るとき、任意組合時代のことにも触れなければなりません。金庫の歴史は、慶応2年（1866年）、洋式金庫を修理したことから始まり、明治初年から製造が行われ、現在まで148年の歴史があります。

昭和13年の日華事変、昭和16年の太平洋戦争勃発で金庫・鋼製家具が製造中止となったため、「全国金庫連合会」を結成し、商工省に陳情したこともあります。昭和25

年に「全国金庫鋼鉄家具商工業連合会」を設立し、昭和35年に鋼製家具5品目（事務用机、椅子、ファイリングキャビネット、書庫、ロッカー）のJISが制定され、昭和40年の発足となりました。

平成元年11月、連合会の名称を「日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会」に変更し、平成5年7月に、それまでの4地区組合から九州を加えた現体制の5地区組合制となりました。平成26年現在、199社が加入し支えて頂いております。

日セフ連の理事会は2カ月に1度、奇数月に開催しております。また年に1度、持ち回りの理事会を各地区組合で開催し親睦をはかっております。総会につきましても毎年5月、地区組合の御世話を頂き、各地で開催しております。現在の役員構成は会長、副会長7名、常任理事5名、理事35名、



委員会風景



賀詞交歓会

監事6名で構成しており、2年に1度改選されます。

次に地区組合の歴史について触れたいと思います。

大阪セーフ(協) 昭和2年設立／88年目
 中部セーフ(協) 昭和13年設立／77年目
 東京セーフ(協) 昭和22年設立／68年目
 中国セーフ(協) 昭和39年設立／51年目
 九州セーフ(協) 平成2年設立／25年目

このように、各地区組合とも大変歴史があり、会員の親睦や地区の問題についての意見交換等活発に活動しております。

委員会活動としては、企画委員会、技術委員会、金庫設備部会、金庫診断士委員会、広報委員会、環境委員会があり、それぞれのセクションで45名の委員が活動しております。各委員会活動については委員会の報告をご覧ください。

また警察庁、警視庁の要請により金庫犯罪の撲滅を図るため、近畿管区、関東管区、中国管区警察局に金庫破壊実験、講演会を実施しました。特に警視庁に対しては年間

3回程度、現場の手口係の警察官を中心に破壊実験や金庫の基礎知識の講習会を行い、金庫犯罪の抑止に努めております。

海外視察については、過去2回実施しております。平成8年6月には伊藤七郎団長以下23名の視察団で米国のセキュリティを視察。また平成18年10月には、熊平雅人団長以下26名がドイツ・ケルンの国際オフィス家具見本市(ORGATEC)を視察しております。

日セフ連では、警察庁、警視庁、経済産業省、(二財)建材試験センター、規格協会等各方面から一方ならぬご協力を賜り、これからも安心と安全を創出すべく、「大切なもの」「かけがえないもの」を守るための方策を積極的に社会に発信していく所存です。

事務局長 中村文雄

委員会活動

企画委員会



企画委員会の設立について

平成9年5月25日の第33回通常総会において企画委員会の設立が承認されました。設立の背景としては、金庫診断士制度をOEM先、卸・小売り、サービス業界に広く周知徹底していく見通しとして、狙いとする代替需要対策、正しい使い方を啓蒙することによる新市場対応の模索等について、マーケティングを含めた全体の指針を考案する委員会が必要となったことから設立されました。

初代委員長には助川純美氏が就任されました。委員会は、(株)イトーキ、(株)エーコー、キング工業(株)(現・日本アイ・エス・ケイ(株))、(株)クマヒラ、金剛(株)、(株)サガワ、富士精工(株)の各企業が参画して構成しています。

主な活動として

- (1) 各委員会活動を支援しながら、委員会及び各地区組合からの意見を理事会に上申する窓口として活動してきました。
- (2) 日セフ連としての国際化規格セミナーなど大きなイベントの企画立案から運営までを実行委員会として活動してきました。

今回、設立50周年の記念式典に関しても予算計画から日程、会場の選定などを行い、平成27年9月11日に、東京都霞が関の霞山会館での開催と相成りました。経済産業省、建材試験センター、規格協会、警視庁など来賓の方々のご案内、記念講演にあたり講師者の依頼や打ち合わせ、記念品の選定など会員の皆様がより多くご参加頂けることを願って一同取り組んでまいりました。

また、日セフ連の50年の歴史を掲載した

委員長

北野秀和（金剛株）



委員

田谷一仁（株エーコー）

三木隆信

（日本アイ・エス・ケイ株）

佐藤健（株エーコー）

渡邊秀隆（株クマヒラ）

原田 稔（株熊平製作所）

橋本博典（株サガワ）

中村文雄（日セフ連事務局長）

平成27年3月現在

記念誌発行に関して、会長・副会長によるこれまでの日セフ連を振り返った座談会や、広報委員会所属企業から出席者が集った今後の業界を考える座談会など、掲載内容の企画・実施を行ってきました。記念誌が無事に皆様のお手元にわたり、式典が滞りなく終わりますことを心より願っております。

実績として

当委員会のこれまでの実績を紹介します。

- (1) 金庫の客観的データに基づいた検証とホームページ等での公開を含め、社会への啓蒙活動を有機的に連関させてきました。
- (2) 金庫の引取り処分等、業界の川下対策を充実させる中で循環型社会を志向してきました。
- (3) 金庫診断士制度の活性化を支援してきました。
- (4) 「経済産業省による国際化規格戦略」等、金庫業界の背景を鑑みたセミナーを開催してきました。
- (5) 金庫に関するISO規格審議に関して、

日セフ連が国内審議機関となる申請を経済産業省に提出、受理されました。

(6) 会員専用ホームページの作成を支援し開放してきました。

(7) 金庫室設備の規格検討と金庫設備部会の設立を行いました。

(8) JIS改正計画、VOC対策を提案してきました。

(9) 日セフ連の財源の検討を行い、役員特別会費の設定、賛助会員制度の設定を行いました。

日セフ連100周年に向けて

金庫業界が社会への安心、安全をいつまでも提供していくこと、災害から貴重な財産を守る新しいものづくりの研究を継続していくことが、これからも大事な使命だと考えます。企画委員会としては各委員会とより密接な連携を図り、理事会への新しい提案を上申して、業界の活性化に向けて活動していきたいと考えております。

委員会活動

技術委員会



JIS改正委員会（原案作成委員会）の様子



委員会の様子

技術委員会の発足

日セフ連では設立当初より、必要に応じて金庫の耐火、防盜に関する専門委員会を設けて、耐火金庫のJIS、金庫の防盜試験規格を制定し、その後も規格の改正を行ってきました。昭和54年に金庫工業部会が発足して以降、金庫耐火庫部会、金庫部会等、部会の名称は変遷しましたが、これらの部会の中に専門委員会を設置して、技術的な調査・検討・提案を継続してきました。これらの活動を継承し、金庫における一般消費者への信頼の確保と品質の向上を目的として、平成10年に技術委員会が発足しました。

現在は、主に耐火金庫のJIS改正・見直し調査、金庫の防盜規格の改正、金庫の環境対策の研究、外部団体からの情報収集といった活動を行っています。

耐火金庫のJIS改正

主に金庫の耐火性能について規定したJIS（S1037）は、昭和41年に規格を制定し現在までに6度の規格改正を行っています。3つの大きな改正点があり、該当機種は新たに試験が必要になることから、金庫業界に大きな影響を与える改正となりました。

1つ目は昭和56年の改正で、コンピュータ用の記録媒体として磁気テープが広く使われるようになったため、磁気テープ用の耐火金庫の規定を追加しました。8年後の平成元年には、フロップディスク用の耐火金庫の規定も追加しています。

2つ目は平成10年の改正で、平成7年に発生した阪神・淡路大震災の大火現場の被災状況を調査した結果、耐火性能を向上させるための見直しが必要となり、U



金庫の耐火試験状況

委員長

原田 稔 (株)熊平製作所



委員

朝妻 誠 (株)エーコー

田村 哲郎 (金剛株)

板倉 博文 (株)サガワ

土井 洋

(日本アイ・エス・ケイ株)

滝口 徹 (株)富士精工本社

平成27年3月現在

L規格との整合性を図りました。

3つ目は平成18年の改正で、ボール等の簡易的な工具で耐火金庫が破られる事件が相次いだことへの対応として、耐破壊試験の規定を追加しました。

金庫の防盜試験規格の改正

金庫の防盜試験方法を定めた規格は、昭和48年に規格を制定し現在までに5度の規格改正を行っていますが、その中でも2つの大きな改正点があり、JIS改正と同様に、新たに試験が必要となり、金庫業界に影響を与える改正となりました。

1つ目は平成10年の改正で、試験の近代化・省力化を図るために、コンクリートをはつる(破壊する)際に用いる電動ハンマーなどが試験工具として追加され、性能等級もTL(耐工具) 30・60・90分とTRTL(耐溶断・耐工具) 30・50・70分から、TL、TRTL共に15・30・60分に変更しました。

2つ目は平成14年の改正で、耐火金庫の防盜性能としてTS(耐火金庫の耐久

具)15分を追加しました。このTS等級は前述の耐火金庫のJISの破壊試験として、平成18年のJIS改正に盛り込まれました。

規格改正以外の活動

耐火金庫のJISや金庫の防盜試験規格による試験に合格した金庫について、日セフ連で試験報告書、申請図等を確認し、その性能を認定する制度を平成16年に制定・開始しました。また、犯罪事情、大地震の発生、環境問題等の対応として、「金庫の持ち去り対策ガイドライン」「金庫の耐震対策ガイドライン」の作成、金庫の塗装のVOC対策品認定制度の制定・実施等、金庫を取り巻く環境に対応した活動を行っています。

日セフ連100周年に向けて

引き続き、金庫の品質、性能を維持、向上するために、日セフ連の中核を担う委員会の1つとして、活動を進めて行きたいと考えます。

委員会活動

金庫設備部会



部会の様子



金庫設備の防盜試験状況

金庫設備とは

主に金融機関などで使用される金庫室等の設備のことで、次の通り定義しています。

「金庫設備とは、盗難、火災などの災害から有価物件を安全に保管し、守ることを目的とした人が出入りできる部屋、または区画を構成する扉・壁・天井・床のことを言い、室内に収納する有価物件の種類により、金庫室設備（一般金庫室、貸金庫室、夜間金庫室等）、書庫室設備、データ保管室設備に大別される」

金庫設備部会の設立

これまでの日セフ連の活動の中でも、昭和59年に通商産業省からの要望で設置された金庫設備工業部会があり、金庫扉、貸金庫、安全保安設備・機器、金融機関業務諸設備等に関する調査・研究・情報

収集及び提供を行っていました。また、金庫設備の試験に関する日セフ連規格の制定を検討していましたが、当時は特に規格の制定までは迫られておらず、実現には至りませんでした。

最近になって、ゼネコン、設計事務所などから、日本国内の金庫設備に関する試験規格の有無や内容の問い合わせが増え、平成22年3月の理事会で金庫設備の規格を検討する部会の必要性を検討することが決まりました。

技術委員会、企画委員会で検討した結果、金庫設備の試験規格、認定制度を制定し、実施することを目的として、技術委員会と金庫設備関連企業の8社で金庫設備部会を組織することとなり、理事会の承認を経て、平成22年に技術委員会の分科会として金庫設備部会が発足しました。

部会長

原田 稔 (株)熊平製作所



委員

河西 勉 (株)イトーキ

朝妻 誠 (株)エーコー

笹田 剛 (株)岡村製作所

田村 哲郎 (金剛株)

板倉 博文 (株)サガワ

土井 洋

(日本アイ・エス・ケイ株)

滝口 徹 (株)富士精工本社

平成27年3月現在

金庫設備試験規格の制定

金庫設備関係各社では、UL規格等を参考にした自社の試験規格で耐火・防盜性能の確認をしており、全体的には共通した試験方法でしたが、細部になると違いがあることから、UL規格等の関連規格の再確認を行い、試験規格案、試験法案を検討しました。また、試験申し込みから受験、日セフ連による性能認定までの流れについては、金庫の認定制度を参考に案を検討しました。案がまとまった時点で、建材試験センターへ試験実施依頼、規格試験法案の確認、調整を行い、理事会の承認後、平成23年4月に規定を発効し、その後順次、試験・認定を開始しました。

新しい規格・制度をつくるために、建材試験センターでの金庫扉の試供品による破壊方法の指導、模擬試験等、通常では実施しないような事を行いました。耐火金庫のJISや金庫の防盜試験規格の制定、その後の改正等の記録を見ると、関係機関、関係各社との調整等で大変苦

労していたことがわかります。こうした過去の諸先輩方の活動により金庫の試験規格を制定し、継続してきたことも参考となり、金庫設備部会発足から約1年という比較的短期間で、金庫設備試験規格を制定し実施することができました。

規格制定後も、試験方法や運用上の課題の対応策の検討、それに伴う各社の認識の共通化を進め、平成27年4月現在、日セフ連の金庫設備認定品として、3社で合計90機種の製品が登録されています。また、規格改正の検討や海外規格の調査等、金庫設備試験規格を維持できるよう活動を行っています。

日セフ連100周年に向けて

金庫設備試験規格の制定・実施という金庫設備部会発足時の目的は達成しましたが、防盜・耐火性能だけに限らず、金庫設備に関するさまざまな技術面での情報収集や研究を行い、業界を取り巻く環境に対応できるよう活動を進めて行きたいと考えます。

委員会活動

金庫診断士委員会



倒壊した家屋



がれきに埋もれた小型金庫

金庫診断士制度のあゆみ

平成7年（1995年）1月17日午前5時45分。兵庫県南部で発生したマグニチュード7・2の激震により、家屋は瞬時に倒壊し、ビルはダルマ落としのようになり、高速道路までもが無残に倒壊し、その後大震災が発生しました。倒壊家屋で道路はふさがれ、消防活動もままならず水道も各地で断水。神戸市では、180カ所以上から発生した火災で建物は、なす術もなく3日間燃え続けました。

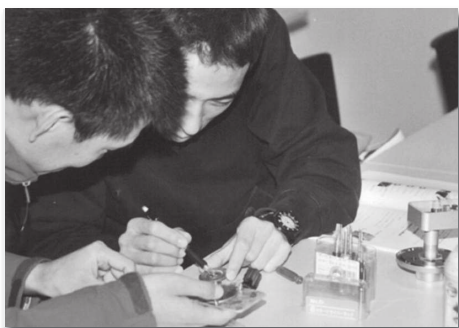
この阪神淡路大震災（兵庫県南部地震）は、セーフ・ファニチュア業界に対しても大きな課題をもたらしました。

鎮火した焼跡から無惨にも焼けただれた金庫が幾度となくテレビに映し出され、ボ

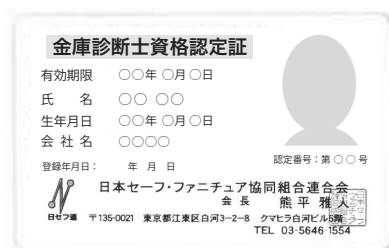


ロボロになった金庫や、真っ黒に炭化した中身を見た消費者からは、「どうしてあのように真っ黒になるのか」「金庫に入れておけば安全と思っていたが、そうではないのか」といった苦情が日セフ連や各地区組合、メーカーに寄せられました。

消火活動がスムーズな通常の火災であれば、十分にその性能が発揮され、中身の安全が守られるはずですが。しかし、一昼夜以上にわたって燃え続ける中に金庫が置かれる状況は想定され



講習会風景



金庫診断士認定証

ていなかったことに加え、一般ユーザーに対して必ずしもこうした耐火金庫の性能について十分な情報提供がなされていなかったことも安全性に対する疑問を生んだ一要因でした。

こうした状況を踏まえて、耐火金庫の有効耐用年数は20年であること、耐火金庫の性能について、それぞれの用途に応じて、防火を目的とした耐火金庫、盗難防止用の防盜金庫、磁気テープやフロッピーディスクなどの保管・保護を対象とした特殊耐火金庫があることの啓蒙活動を推し進めました。

また、同年7月1日からのPL法施行に伴い、金庫に対する正しい知識を広く普及させユーザーからの信頼を強固にするため、日セフ連傘下組合員を対象にした「金庫診断士制度」の導入が図られることになりました。制度制定に当たっては、日セフ連の金庫部会において推進委員会が組織され準備が進められました。

第1回目の「金庫診断士」の講習・試験

は、平成9年2月15日、東京（2会場）・名

古屋・大阪・福岡の5会場において実施されました。受験申込参加者は当初の予想をはるかに上回る284名に達し、急遽2回目の試験を4月に実施するなど上々の滑り出しで、「金庫診断士制度」に対する組合各社の高い関心をうかがわせるものでした。「金庫診断士試験」は平成26年度で18年目を迎えました。受験対象者を、日セフ連傘下の組合加入企業在籍者に限定しているため、近年の受験者は40〜50名程度ですが、資格取得会員企業は70会員に及び、731名（平成26年11月現在）の金庫診断士が現在活躍されています。

金庫診断士資格取得の概要

【金庫診断士の定義】

・金庫診断士とは、日セフ連が行う資格認定試験に合格し、日セフ連より金庫診断士資格認定証を受け、金庫診断士登録簿に登録した者。



委員会風景



試験風景

【金庫診断士の役割】

・耐火・防盜金庫の正しい選び方の普及を図る。収納物の種類により、用途別の使用方法を明確にする。

・使用中の耐火・防盜金庫の診断を行い、適切なアドバイスや提案を行う。

【受験資格】

・日セフ連傘下の組合加入企業在籍者
・以下の（イ）（ロ）（ハ）（ニ）のうち、いずれか1つ条件にあてはまる者

（イ） 金庫販売業務に3年以上従事。

（ロ） 金庫の修理に3年以上従事。

（ハ） 金庫の製造・設計に3年以上従事。

（ニ） 前述の各業務を合わせて3年以上経験。

【資格者の利点・特典】

・金庫診断士資格認定証（カード）が交付される。

・名刺に日セフ連「金庫診断士」資格が印刷できる。

【資格の有効期間】

・有効期間は「金庫診断士資格認定証」公

布後3年とし、所定の手続きで更新する。

・有効期間内でも、金庫診断士として、不適切な行動があった場合は理事会の承認により失効できる。

・日セフ連参加の組合員及びその従業者の資格を失ったときは失効とする。

金庫診断士委員会の活動

金庫に対する正しい理解・使用法の普及を目的に各委員会と連携し活動しています。

主な活動は、毎年秋に開催する金庫診断士資格認定試験の準備、講習・試験の実施で、委員6名、講習会講師3名の計9名で活動しています。

日セフ連100周年に向けた今後の活動

ここ10年間で、全国の建物出火件数は3万4000件から2万5500件に減少し、侵入盗発生認知件数も30万件超より11万5000件と大幅な減少傾向にあります。し

委員長

渡邊秀隆 (株)クマヒラ



委員

佐藤 健 (株)エーコー

板倉博文 (株)サガワ

八鍬雅文

(日本アイ・エス・ケイ(株))

佛圓隆行 (株)熊平製作所

井上信男 (金剛(株))

講師

田村哲郎 (金剛(株))

松島義人 (株)クマヒラ

山崎 望 (株)クマヒラ

平成27年3月現在

かし、建物出火や侵入盗がなくなったわけでも、また、今後もなくなくなるわけでもありません。

東日本大震災では、津波により多数の「漂流金庫」が発生しましたが、岩手・宮城・福島3県の警察に届けられた約5700個の「漂流金庫」について、実に99%以上もの収納物が持ち主に返還されました。金庫がなければ持ち主の特定のみならず収納物が残ることも難しかったことを考える

と、金庫はその役割を果たしたと考えられます。

今後も、人々が自身の手元にかけてがえない物を置いておきたいとの願いは、おそらく消えないと思います。こうしたユーザーの願い・要求を真摯にとらえ、正しいアドバイザーや適切な提案、製品の改善を行い続けることが業界の維持・発展のために必須であり、その一役を担えるよう活動していきたいと考えます。

委員会活動

広報委員会



広報委員会の発足

消費者に対し金庫の啓蒙・啓発を主な目的として、日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会の紹介パンフレットの作成とPLシール改訂のために平成10年（1998年）に広報部会が発足しました。その後、ホームページの開設や性能表示マーク（ピクトグラム）の統一など広報活動の案件が増えたことから、平成13年（2001年）に広報委員会へ昇格しました。

主な制作実績

◎PLシールの改訂

平成7年（1995年）に製造物責任

法（PL法）の施行に合わせて作成されたPLシールは、「金庫の耐火性能の耐用年数は製造後20年」「耐火金庫の性能と収納物の注意」を表示し、使用上の注意喚起を行うために金庫本体に貼られていました。平成11年（1999年）には、金庫の種類によって異なる性能をより分かりやすく表示するため、「使用上注意のシール」として4種類のシールに変更し、さるなる改訂を経て、平成15年（2003年）から「耐火金庫シール」「耐火金庫（TS-15認定品）シール」「防盜金庫シール」「収納注意シール」となり現在に至ります。

◎日セフ連 紹介パンフレット

平成11年（1999年）には、日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会の紹介パンフレットを作成し、広く活用されま

委員長

三木隆信

(日本アイ・エス・ケイ(株))



委員

森山恵 (株)イトーキ

近藤朗 (株)エーコー

佐伯享 (株)クマヒラ

井上信男 (金剛(株))

柳瀬仁 (株)サガワ

布野世通夫 (株)ナイキ

八鍬雅文

(日本アイ・エス・ケイ(株))

尾崎昭三 (樋口金庫(株))

茶谷英二 (株)ライオン事務器

平成27年3月現在

した。

◎金庫のルール パンフレット

一般消費者向けに金庫の定義、正しい使い方を広くPRする目的で『金庫のルール』を作成しました。初版は、JIS改正(1998年)により耐火性能の向上がなされたことをPRするために平成11年(1999年)に発行されました。第2版では、金庫破りなどの強硬な破壊行為が急増し社会問題となった状況に対応するため、防盜試験規格にT S 15等級が追加されたこと、信頼性をより高めるために一定の性能基準を満たしていることを型式ごとに認定する型式認定制度についての内容が反映されました。第3版では、東日本大震災など災害に対する関心の高まりを反映し、平成25年(2013年)に刷新しました。

◎性能表示マークの統一

JIS改正(1998年)では、UL規格との整合を図り、規格の見直しによる耐火性能の向上がなされました。これを

機に、それまで各社で異なる表示をしていた性能表示マークを統一し、一目で性能がわかるようになりました。

◎ホームページの開設

より多くの消費者へ情報を発信するために平成11年(1999年)にホームページを開設しました。平成19年(2007年)にリニューアルし、金庫の環境対策や型式認定品の公開、金庫設備に関する情報などより多くの情報を公開しています。

◎JIS認証製品の表示

JISマーク表示制度の改正に合わせて、カタログ等への表示を統一しました。

日セフ連100周年に向けて

これからも広く一般消費者に向け、日セフ連の活動や金庫の正しい使い方をより分かりやすく伝えるなど、金庫が身近に感じられるような広報活動を行っていききたいと思います。

委員会活動

環境委員会



平成2年7月、第3回金庫耐火庫部会で「廃棄金庫の回収、処分を製造責任で実施することについて」が討議されました。この中で、回収、処分は消費者からの問い合わせを含むため、窓口となる場所が金庫製造業だけで行うことは困難であるとし、金庫の販売に係る大手商社や小売店に協力を求める必要性に迫られました。翌年3月、この問題に対処するため委員長ほか、会員企業12社の代表からなる13名で構成された「廃棄金庫処理委員会」が設置されました。この「廃棄金庫処理委員会」が現在の「環境委員会」の前身となります。

「廃棄金庫処理委員会」では、廃棄金庫の引き受け窓口のメーカー分担はもちろん、メーカー不明のものについても同様に引き受け窓口を分担し、応答業務の簡易迅速化、回収費用の改善等を実施するなど、現在に

至る環境委員会の基礎部分を構築して頂きました。そればかりか、この年の10月にはリサイクル法が成立し、発足直後から金庫の廃棄処理問題だけではなく、リサイクル法への対応についても討議、検討していくこととなります。

平成10年9月、第3回理事会で「廃棄金庫処理委員会」は、金庫の廃棄処分だけではなく、リサイクルを含む環境問題に対応する「環境委員会」として新生。「廃棄金庫処理委員会」からの流れを引き継ぎ、金庫の廃棄及び環境に対する問題について討議、検討を続けていくこととなります。

以降、環境委員会では、全国の金庫の廃棄料金及び実態の情報収集、全国主要地域の金庫の廃棄処分料金の調査のリスト化、金庫の引取処分の仕組みと業務の全国化の推進等の活動を行い、金庫の廃棄処分につ

委員長

田谷 二仁 (株エーコー)



委員

古谷 俊一 (株イトーキ)

土井 洋

(日本アイ・エス・ケイ株)

松田 敏之 (株クマヒラ)

橋口 健一 (金剛株)

泉利 治 (株ライオン事務器)

柳瀬 仁 (株サガワ)

平成27年3月現在

いて業界としての対応や回収、処分の全国展開を構築していきました。そして平成12年5月にグリーン購入法が制定、平成17年には経済産業省より「アスベストを含有する家庭用品の取り扱い」についての発布があり、この問題への対応にも取り組みました。平成23年には、金庫の塗料に関して技術委員会と合同で「金庫の塗装のVOC対策品認定規定」を制定。この基準に当てはまる「揮発性有機化合物」を使わない製品を業界認定し、日本セフ連HPへ掲載するなど、金庫が利用される環境にも配慮する対応も行っています。

今日まで環境委員会が主に行ってきた活動は、90年代以降社会問題となっていた廃棄物処分場の枯渇や不法投棄などへの解決に伴って進んできた「循環型社会」の構築に準拠したものであり、環境省より毎年発表される「産業廃棄物の不法投棄等の状況」の中に「金庫」や「耐火金庫」という文字が見られなくなったということからも、回収面においては実際に効果を上げてきた

と言えます。しかし、資源を循環させていくという面では、耐火金庫はその性質上まだまだ課題は多いと言わざるを得ません。環境、資源の問題は世界規模で深刻化が進み、製品そのものだけではなく、生産工程で発生するCO₂の削減、グリーン購入法に基づく特定調達品目に認定された材料の利用等、業界単位で実施、検討する環境対策のほかにも、各企業単位で求められる対策、対応が不可欠になっています。

これからの50年、私たちの業界がかかわるであろう環境、資源の問題は世界規模で語られ、関連する規格の国際化などで私たちを取り巻く環境は大きく変化していくでしょう。それらが求める問題に迅速かつ的確に対応するためには、既存材料、製造方法、加工方法を昇華させ、「環境破壊を招くであろう材料や薬品」に代わる新しい材料や薬品を用いた「新しい物づくり」を目指して邁進していくことが望まれます。業界単位で力を合わせ、これらの問題や課題に取り組んでいくことを願っています。

寄稿 「日セフ連回想記」



伊藤喜ベストメイツ(株) 代表取締役社長 伊藤 七郎

私は平成6年5月から平成13年5月まで、日セフ連の会長職を務めました。後任の熊平雅人会長、中村文雄事務局長は、現在まで15年間お務めです。稀有のことです。誠に「苦勞様」と申し上げます。

日セフ連50周年にあたり私の在任中に起こったことを回想しました。金庫部会・環境部会・事業推進委員会等は私が在任中に設置されましたが、皆様の強力な推進力で実現しました。厚く御礼申し上げます。

阪神・淡路大震災とその対応

J I S S 1 0 3 7 (耐火金庫) 改正

平成7年1月17日、震度7の大都市直下型大地震が発生しました。残念なことこの地震で焼失した木造家屋にあった多数の家庭用金庫・事務用金庫の中身が焼けました。地震により金庫が倒れ、木造家屋の場合には火事の瓦礫に埋まり半日～1日も蒸し焼きになりました。鉄筋ビルの場合は、建物内部が焼失しても金

庫は無事でした。この反省から平成10年、J I S S 1 0 3 7 耐火金庫規格は改正され、さらに強力な耐火性能が付加されました。所定時間の加熱試験が終わった後、金庫を9・1mの高さから落下させ、これを逆さに加熱炉に入れ、20分加熱する耐衝撃試験が行われました。

戦前の金庫は結構、耐火性がありました。壁厚が非常に大きいのです。大阪ではかつて「北の大火」と呼称された密集した木造家屋が800軒も焼けた火事がありました。伊藤喜商店では火事に遭ったお得意先の金庫の開扉に訪問しました。

中は大抵無事でした。それで「東京竹内金庫奏効」と書いた幟を立てて、無事な金庫と一緒に写真に撮って販売推進に使用しました。

第2次大戦でも大空襲により都市で戦災の大被害がありました。金庫はほとんど無事だったと記憶しています。金庫屋は戦後、中身が無事だった焼け金庫を再生して販売することでスタートしました。

PL法 (Product Liability, 製造物責任法) 対応

平成6年7月、PL法が公布されました。消費者は製品の欠陥により被害を受けた場合、製造者に対し製造上の過失を自ら証明することなく、被害の損害賠償請求ができます。

金庫の場合は、耐火性能も防盜性能も品種の違いによりさまざまです。また、耐火材の性能に時間的制約があり、時間経過により性能が劣化します。それで耐用年数を20年と定めています。

消費者に、各社の金庫性能を耐火試験・防盜試験の判定に基づき知らせることがPL法では要求されます。この対応として日セフ連は次の対策を行いました。

- (1) 建材試験センターで行う耐火試験・防盜試験の申込受付業務を行う。
- (2) 試験結果の合格・不合格判定業務を行う。
- (3) 金庫の「使用上注意シール」を作成、各メーカーに配布して金庫に添付を依頼する。
- (4)

「日セフ連防盜試験合格プレート」を作成販売して本体へ貼り付けを依頼する。

(5) 「金庫の耐用年数は20年です」とPR作業を行い、20年経過すれば結晶水の蒸発により耐火性能が劣化して所定の耐火時間維持が不能となることを周知させる。

金庫診断士資格制度を発足させる

平成9年より毎年、金庫診断士資格試験を実施しています。金庫の普及・啓蒙活動として金庫の専門家を育成することを目標に金庫講習会と同時に実施します。

「金庫講習会内容」①金庫の基礎知識②金庫の耐火性能③金庫の防盜性能④耐火・防盜以外の規定・ダイヤル錠などの実習⑤保管上の注意⑥金庫診断のポイント⑦PL法概要⑧金庫と環境問題

金庫引取り処分事業

金庫を廃棄するにも、自治体は粗大ゴミと認定せず引き取りません。日セフ連は運送業者・ゴミ処分業者と契約して低価

格で引き取り、業者が金属とコンクリートに分別して処分します。専門業者を育成した結果、順調に事業が推進し、日セフ連には事業収入として良い収益となりました。

業界の親睦

財産を守る金庫には防盜のため各社共、その構造に社外極秘の部分があります。各社には「金庫開扉の名人」がいます。イトーキでは昔、真弓さんという名人がいました。彼は大阪勤務でしたが、金沢市の得意先から金庫を開けてほしいと依頼があり、出発時に帰りの特急券を買った上で金沢まで出張し、即開扉して帰阪しました。金庫業界各社は金庫について秘密の部分を抱えています。業界には「秘密結社」的な匂いがあります。業界の親睦には、このような要素があると思います。今後も業界の親睦を守りましょう。